

特定非営利活動法人「防災のことは研究会」 「伝える」から「伝わる」へ

★6月10日（金）関東地区 平成28年度・第2回研究発表会



熊本地震と情報伝達問題

熊本地震発生から1ヶ月経ちましたが、九州・四国地方では、まだ地震は続いています。それらの地震は、熊本地震の余震なのか、新しい地震なのか、それとも次に起きる地震の前震なのか？新しい地震とすれば、小さくてもそれぞれが本震なのか？（気象庁HP：<http://www.jma.go.jp/jma/menu/knowledge.html>）

この1ヶ月、私たちはこれらの地震を分類する言葉に翻弄されてきました。4月14日に起きた大きな地震の後、余震に注意と伝えられましたが、しばらく大きな地震が発生していない熊本では、多く人が「余震だから前の地震より小さいだろう」と思ったようです。しかし、数日後、それより規模の大きな地震が起きたため、犠牲者が増えてしまいました。

防災のことは研究会のスローガンは、「伝える」から「伝わる」へ、です。今回の例は、まさしく、伝える側が、発信した地震情報が、地震が発生した地域で、どう「伝わる」のか、どのような「意味」で受け取られるのか、を考慮せずに発信して起きた問題だと思えます。

このように災害情報で使われている言葉・表現が誤解を生むということがよくあります。私たちは、この「ことば」の問題が、災害情報が正しく伝わらない大きな原因の1つだと考えています。このような「ことば」の問題を解決しようと、発信側と受信側の両方の人たちが集まって研究を続けているのが、このNPOです。今回の関東での第2回研究会は、熊本地震で起きた情報伝達の問題について、言語学からの見解をお話し、現地に行かれた方の報告を聞いたあとで、討論会を行いたいと思います。会員以外のみなさんも、是非ご参加ください！



平成28年度 関東地区

第2回研究発表会・討論会 （会員全体会議を含む）

日時：6月10日（金） 18:00～20:00

場所：東洋大学白山校舎8号館1階

地域連携推進室

- 1) 言語学から見た「熊本地震の情報伝達問題」
報告者：NPO防災のことは研究会理事長 新井恭子
- 2) 現地調査の報告（討論会への話題提供）
報告者：総務省 消防庁消防大学校消防研究センター
地震等災害研究室 支援研究員 遠藤真氏
- 3) 自由討論会
- 4) 会員全体会議

参加費用＝会員無料（非会員 1,000円・学生 500円）
懇親会＝研究会終了後、大学近くで食事会を行います。当日参加希望者を募ります。

入会案内：

入会条件は特にありません。
災害の時の情報の伝達について、
問題意識のある方なら、どなたでも入会頂けます。

【会員の特典】

- 1 研究会、シンポジウム等のイベント参加費無料（研究発表の権利）
- 2 情報交換のためのメーリングリストに登録。
- 3 研究会の出版物、論文集の無料配布（投稿の権利）

※詳しくはホームページをご覧ください。

連絡先：

特定非営利活動法人（NPO）
「防災のことは研究会」

理事長 新井恭子

E-MAIL：arai-k@bousainokotoba.com

HP：<http://www.bousainokotoba.info>